

2016.10.31

「どれくらいがんばっているかが気になる大人... そうではなく、その子のがんばりに
どれくらい気づくことができるか」

「子どもの仕事は大人の手をわずらわせること、大人の仕事は振り回されること」

今年も齋藤真人先生（立花高等学校 校長）の講演をきくことができました。
先生の宮崎弁があたふた、笑って泣いて... の忙しい充実したひと時でした。
お話をうかがうのは3回目でしたが、毎回違うところが心に響き、今回は上記の
言葉が印象深く、先生とお母様とのエピソードには涙があふれてきました。入居
されていたお母様のお見舞に行かれる度にさゆっとお母様を抱きしめて「お母さん
の子どもはいい、産んでくれてありがどうね」「あんなに世界一の息子よ」「いやいや
それはお母さんが世界一のお母さんやけんよ」という会話をされていたという先生。
その先生が言われます。「みんな、母のことが大好きな自分が、ついあの時、
弁当を投げつけていか、意味がわかりません。」... 反抗期に入りつつある長男
との関係、子育てに悩むお母さんに、「大丈夫、大丈夫と書いてくださっているようにして。」

どれだけわが子ががんばっているか気づける親でありたい。そのがんばりをしっかり
言葉であげたい。肩の力をぬいてそっと耳添える親になりたいと思っていてはダメなのに
日常生活の中で心のどこかに隠れてしまっていました。（という耳、そんな宗べきな
親であるわけがない！ ですわね。） 知らず知らずとわかっていてもできないこと、
忘れていたことを「タイミング!!」で気づかせてくれる機会が与えられ感謝です。
そして、「子どもたちは、もうすでにがんばっている。だからといって何も言わないでいいのは
ない。しっかりとあげよう！ 言葉かけよう!!」（でも、しる必要のない時（それは知らなくて））
「がんばっている子にがんばれと言うのは苦しめてしまう。でも、それまでのその子のがんばりを
知った上で、本当にその子にとって必要な時には、がんばれ! と背中を押してあげて
ほしい。」という先生の最後の言葉に、これから本格的に突入するであろう反抗期に
ぞんぞんと構える心の準備もできました。甘える方が反抗期、少々やっかいですが、わが子の
心の動きに気づき、伝える思いを伝え続け、ココ!! という時（それは「がんばれー!!」と
声の限りにエールを送りたい！ がんばれすぎずやってみようと思っているところです。

そう、幼稚園でも子どもたちはたくさん心に本を動かして遊んでいます。夕方に
なるほどグズグズ、泣いてこ（はなしてしょうか。幼稚園でがんばって家庭では甘える...
子育て 川原調 順調！ です。

